

**算 数 通 信**

テーマ：個別学習の試み

せらにし小学校 2年担任 横山先生の「個別学習」の実践です。

横山学級の授業は、子どもたちが自己主張しながらも、お互いの意見を受け入れながら、新たな発見や共通理解をしていっています。そのような子どもたちの様子を見てみると、「個別最適な学び」は「協働的な学び」に支えられて成立するものなのだという思いを強くします。

本時は、「ひき算のひっ算」の3時間目を、「個別最適な学ば」の学習形態である「個別学習」で実践されました。学習計画は、次の通りです。

学習計画 2年「ひき算のひっ算」		— 5時間扱い —	
第1時	$129$		(一斉授業)
	$\begin{array}{r} - 53 \\ \hline \end{array}$		
第2時	$146$		(一斉授業)
	$\begin{array}{r} - 89 \\ \hline \end{array}$		
第3時	$102$	$105$	(個別学習)
	$\begin{array}{r} - 65 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} - 8 \\ \hline \end{array}$	
第4時	大きい数のひっ算		(一斉授業)
第5時	活用問題・振り返り (個別学習・一斉授業)		

**個別学習の内容**

- ぜん半 (20分間ていど)
- ・ 問だいをとく
- ・ 友だちときょうゆうする
- ・ 大じな考えを書く
- こう半 (20分間ていど)
- ・ 問題をはってんさせる
- ふり返り (5分間)

授業は、1単位時間の中の前半に「指導の個性化」にあたる学習(20分間程度)、後半に「学習の個性化」にあたる学習(20分間程度)、残り5分間が「振り返り」の時間という計画でした。

これまでに習得している**数学的な見方・考え方**は、「ひっ算はくらいをそろえる」「一のくらいから計算する」「一のくらいがひけない時は、十のくらいから一のくらいへ10かりてくる」です。本時は、「十のくらいが0の場合はどうするか」の解決法を、**子ども自身が見つける**ことが目標です。この時間では、子どもたち11名中9名が、後半の「問題を発展する活動」をしています。2名は前半部分のまとめまで取り組んでいます。

**はじめに、「本時の問題が何か」を押さえ、個別学習に入りました。**

T 今日の問題です。

C 今日の問題は、十のくらいの数が0なので、一のくらいがひけません。

T それでよいですか。それでは、めあてはどうしますか。

C 十のくらの数が0のときのひっ算のしかたをせつめいしよう。

T できそうですか。席は自由。

解くときに必要なものがあれば、先生のところに来てください。

- 「くらいボックス」 「クロムブック」 「そうだん そうだん」  
 (このような声が出ていました。)

配付したプリント

**たし算とひき算のひっ算**

月 日 曜日      2年 名前 (      )

㊦

もんだいをといた後、【せつめい】や【大じな考え方】を書きましよう。

㊧ ひっ算でしましょう。

① 102-65      ② 105-8

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="border: 1px solid black;"> </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;"> </td> </tr> </table>	①					-										<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">②</td> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="border: 1px solid black;"> </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;"> </td> </tr> </table>	②					-									
①																															
-																															
②																															
-																															

【せつめい】

【大じな考え方 (ちゃくもくポイント)】

まとめ

㊨

自分の考えをもつことができた。	
自分の考えを分かりやすく伝えることができた	
友だちから学ぶことができた	
いっしょに考えた人がいたら名前をかこう	

○ (十のくらいが0) のときのひっ算で、**大じな考えは・・・**

- ・百のくらいから10もらって、一のくらいに10あげる。
- ・百を10ずつばらばらにして十のくらいにおいて、10を一のくらいにわたしてひき算をする。
- ・百のくらいからぜんぶの10を十のくらいにわたす。十のくらいにわたした10を一のくらいにわたす。
- ・100は10が10こできているから十のくらいにおいて、その中の1こを一のくらいに下げる。

$\begin{array}{r} \downarrow 9 \text{ あげる} \\ \cancel{1} \cancel{0} / 3 \\ - 68 \\ \hline 35 \end{array}$	$\begin{array}{r} 9 \\ \cancel{0} \cancel{1} / 5 \\ - 57 \\ \hline 48 \end{array}$
<p>発展問題 (2人分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の大事な考えを使って数字を変えて解いていきます。</li> </ul>	

○子どもたちの学びの姿

- ・**始まるとすぐ**「くらいボックス」や「クロムブック」を取りにくる子が多かったです。最終的には、くらいボックス」を使って図にかく方が増えました。書き足しを行ったり記号を使ったりすることがやりやすいというようなことを言ってくれました。
- ・全体での話し合いを軸にした学習活動とは、子どもたちの様子が違いました。**子どもたちどうしの関わりが広がった**ととらえました。例えば、言葉中心の発表では言い争いに近い状況が起こることもあります。しかし、子どもどうしで進めていくと、ふだん組まない子どもどうしの交流の場面が見られたり、説明を交互に聞き合ったりする姿を見ることができました。一つの席に子どもが2, 3人集まって、考えを交流する姿はいいものですね。話し合っている子どもの発言の中に、「今日、初めて〇〇くんと(算数の)話し合いができた」「〇〇君に、ぼくの考えを聞いてもらえた」などの言葉が出ていました。
- ・**教師の関わり**として、理解が追いつかない児童に対しては、しっかりついて助けることもできるということが分かりました。また、子どもどうしをつなぐこととして、早くできた子のプリントを参考にさせるという方法も有効でした。